

算数科 小学校 5年

単元名「平均とその利用」

本時の流れ (第3時)

本時の目標

○いくつかの部分の平均を知って全体の平均を求めることができる。

復習
・前時の復習をする。

【問題】

☆子ども会で、A、B 2つのグループに分かれて空きかん集めをしました。

	人数	1人平均の個数
A	18人	15個
B	12人	10個

課題の把握
・本時のめあてを知る。

【課題】

子ども会全体では1人平均何個集めたことになりますか

自力解決
・個々に考え、題意に合うように答えを求める。

【考え方①】

☆A、Bグループの平均をたして2でわる。
 $(15+10) \div 2 = 12.5$

【考え方②】

☆全体の個数を求めてから全体の人数でわる。
 $(15 \times 18 + 10 \times 12) \div (18 + 12) = 13$

集団解決
・考えを発表し合い、正しい求め方について話し合う。

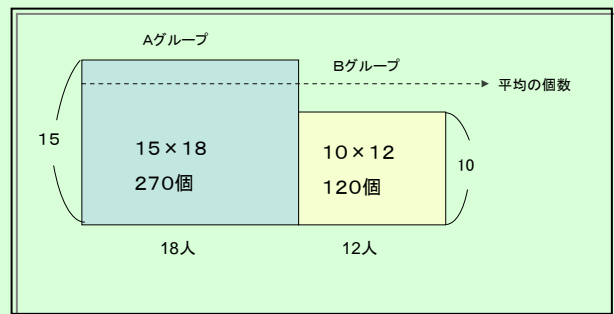
【集団解決】

☆下の棒グラフの図を提示して、視覚的に量の大きさをとらえさせてから、「ならず」という考えのもとに全体の平均の求め方に気付かせる。
☆かんの合計数をA、Bグループ別々に計算しなければならないことに気付かせる。
☆次に全体の個数を全体の人数でわる必要性を理解させる。



【ヒント】

☆極端な数 (Aグループ2人、Bグループ30人など) を例にして【考え方①】の誤りに気付かせてもよい。



適用問題
・部分の平均から全体の平均を求める問題を解く。

【自力解決】

☆自力で解決しにくい児童には、教科書P36の⑤と⑥の表を比べてみるようにさせる。

学習のまとめ 学びの振り返り

【振り返り】

☆2つのグループの人数などが異なる場合は、全体の合計を求めてから平均を出すことをまとめる。

HOME

単元の流れへ

授業展開例へ